

## 随 筆

### お香

改井 修

2年前に小牧市民病院を停年退職し、大学の事情と小牧市民病院の状況から、正確に言うと需要と供給の関係から、2年間の約束で放射線科部長を非常勤嘱託という形で続けさせていただいて2017年3月までの約束となっている。

非常勤嘱託とはいえ、仕事内容は現役時のままで、CT、MRI、RIの読影、健診の胸部XP、UGI、MMGの読影、US診断、緊急時のIVR（待機当直当直も含む）である。当然院内の必要な会議、カンファレンスを含んでいる。

2年前は、何とかこなせるであろうと、気軽に請け負ったが、正直、体力的につらい日々をおくることとなった。

この2年はスタッフに負うところが大きく、偶然常勤が優秀な4人（一応自分も含ませていただく）になるという、ラッキーなところもあり、何とかこなしている状況である。

ふり返ってみると現役時代は62歳くらいまでは何ら仕事に支障をきたすことのない自分を実感できていたきがあるのである。

60代前半にまず感じたのが、若いころほぼ全ての小牧市民病院のANGIO、IVRをhigh tensionでこなしていたころに比べて、ここ10年はIVRで放射線科が関与するものが十分の一程度になり、ほぼ緊急IVRだけになっているにも関わらず、できれば回避したいという気持ちが生じてきた。

まず気力の衰えと忍耐力の衰えが生じたものと思われる。忍耐力は昔から気が短く無いほうであったが、誰よりも早く、正確にこなせるという自信が忍耐力の限界を上まわっていたようである。

次に最近のCT、MRIの件数の多さが、大きな負担となってきている。もともとデスクワークが不得手な上に、視力、動体視力の衰え、これに伴う判断力、診断力に対する反応の低下が、レポート作成件数の減少をきたしている。

これを補うために目のサプリメントを多飲し、眼鏡もブルーライトをカットするものを使用している。また気分転換と脚力維持、エコノミー症候群予防のため1～2時間に1度、病院内を階段を使いながら、できるだけ遠回りをして歩くよう努めている。

正直、目のサブリは遠方に高速ドライブをするときには有効性を感じるが、読影の疲労感を改善しているのか否か不明である。

ブルーライトカット眼鏡は確かに長時間読影には、楽なのだが、肺の微妙な気腫性変化を見逃してしまっていることに気がついた。くわばらくわばら。

最近、大学の二橋先生からアロマの読影実験に参加するようお誘いをいただき、加わる機会をいただいた。城北クリニックの石垣先生のところにおじゃまをし、アロマを嗅ぎながらの実験であった。用意されたのはゆずの香りで当初は人工的な香りのような気がして、あまり好みの香りではなく、失礼にも石垣先生が用意されたトイレの芳香剤ではないですかとお聞きした。

不思議なものでアロマの日本を代表する方が調合された柚子そのものから抽出しがものだと聞くと、根が単純な私は、アロマ効果が顕著に表れる type に分類される結果となった。もともと西洋的なアロマの香りや、和のお香がすきで、自分なりに嗅いでいたのだが、読影に効果をもたらす香の力には驚かされた。どちらかというとも最近和の香りが好きで、読影室にもと思うと、病院内では線香をたいていると勘違いされヒンシュクをかうのは必須である。

これを機にアロマの世界に入門、アロマを極めるのも良いかと考えている次第である。

(小牧市民病院放射線科部長)

